

はじめに

古代日本（律令政府）と蝦夷の 38 年戦争における、日本の英雄・坂上田村麻呂と蝦夷の英雄・アテルイ。
2 人の英雄は後世にそれぞれどう伝承されていったのか。日本の異文化に対する考え方の変遷をみていく。

1 蝦夷とは

古代日本の支配下に未だ入っていない東方（東・北）の人々。
* 政治的に異民族とみなされる

2 古代日本（奈良～平安）の人々の蝦夷観

中華思想の世界観 ⇒ ・ 中華の文明を教え「教化してあげる」存在
・ どうしてもだめなら「力づくで正しくしてあげる（『征討』する）」存在

3 桓武時代の「征討」（38 年戦争の中心期）

* 資料プリント②参照

4 後世にどう伝わったか

(1) 坂上田村麻呂

- ・ 都の守護神 『田村麻呂伝記』（9 世紀末頃成立か）
- ・ 毘沙門天の化身・・・「聖」「俗」の災いを祓う ⇒ （中世）悪鬼・山賊・人さらいの鬼退治の英雄

(2) 蝦夷とアテルイ

悪鬼 異人 群盗

- 奥州の逆賊伝承（悪路王など）
- アテルイ 伝首級（鹿島神宮所蔵 悪路王の面）
- 『清水寺縁起絵巻』（室町時代）

教化して取り込む存在 ⇒ 追い払われる存在 へ

5 現代の見方

(1) 学習マンガの変遷

(2) 東北から歴史をみる

- ・ 岩手県奥州市水沢区の「アテルイ歴史の里祭り」
- ・ 新アテルイ像の公募
- ・ 東北学

(3) 清水寺 北天の雄頭彰碑

1994 年 都サイドと蝦夷サイドの後裔が、共に清水寺（田村麻呂の建てた寺）で蝦夷を顕彰
* 「征討される」側を讃える碑を「征討する」側ゆかりの地にたてる

さいごに

歴史から学ぶ 一方の情報と見方に陥る危険性

古代東北戦争：桓武天皇の時代の「征討」

第1回「征討」延暦8年(789)

6月 蝦夷の首長・阿弼流為の活躍

第2回「征討」延暦10年(791)～13年(794)

征夷副使 坂上田村麻呂

第3回「征討」延暦20年(801) 征夷大將軍 坂上田村麻呂

延暦21年(802) 1月 胆沢城築城

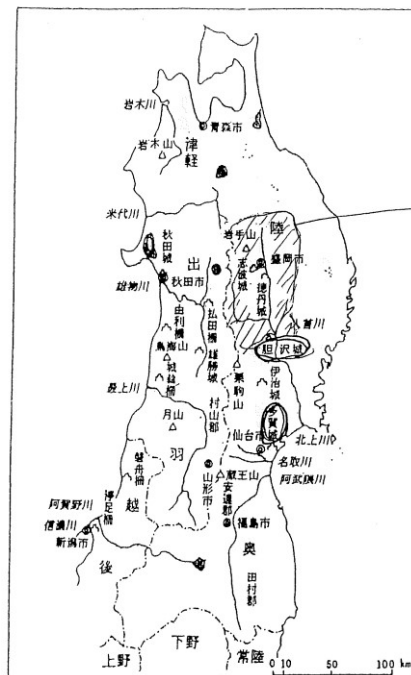
4月 阿弼流為・母禮以下500余名降伏

8月 阿弼流為ら処刑

『日本紀略』延暦二一年(八〇二)八月十三日条

東大墓公阿弼流為、盤具公母禮等を斬す。此の二虜は並びに奥地の賊首なり。二虜を斬する時、將軍(田村麻呂)等申して云わく、この度の願に任じて返し入れ、その賊類を招せん、と。

而るに公卿執論して云わく、野性獸心、反覆して定まることなし。すぐれて朝威によりこの梟帥を獲る。縦して申請により奥地に放還すは、所謂虎を養いて患を遺すなり、と。即ち両虜を捉えて河内国杜山に斬す。



『田村麻呂伝記』『群書類従』第5輯所収

(略) 同(弘仁)二年五月二十三日薨す。(略) 同(五月)二十七日、山城国宇治郡来栖村に薨す。時に勅あり。甲冑 兵仗 劍 銚 弓箭 繡 塩を調へて合葬せしめ、城(平安京)の東に向け窆を立つ。(略) その後若し国家に非常の事あるべくんば、則ち件の塚墓 宛も鼓を打つが如く、或ひは雷電の如し。爾来、將軍号を蒙りて凶徒に向ふ時は先づ此の墓に詣で誓ひ祈るなり。(略)

『吾妻鏡』文治五年(一一八九)九月二八日条

(略) 漸くして鎌倉に還り向かふ。(略) 御路次の間、一の青山に臨ましめ給ひ、其の号を尋ねらるるの處、田谷窟なりと云々。是田村麿 利仁等將軍 綸命を奉じて夷を征するの時、賊主悪路王並びに赤頭等、塞を構ふるの岩屋なり。其の巖洞の前途は北に至るまで十余日、外浜に隣するなり。坂上將軍、此の窟の前に、九間四面の精舎を建立して、鞍馬寺に模して多聞天を安置せしめ、西光寺と号して水田を寄付す。(略)

『保元物語』

古 その名聞し田村利仁が鬼神をせめ、頼光 保昌の魔軍をやぶりしも、或いは勅命をかたどり、或いは神力をさきとして、武威の誉を残せり。

謡曲「田村」

坂の上の田村麿、東夷を平らげ悪魔を鎮め、天下泰平の忠勤たりしも、すなはち当寺(清水寺)の仏力なり。(略) 然れば君の宣旨には、勢州鈴鹿の悪魔を鎮め、都鄙安全になすべしとの仰せによって軍兵を調へ、既に赴く時節に至りて、この観音の仏前に参り祈願を致し立願せしに(略)

アテルイ音頭

作詞 佐藤勝
作曲 瀬川伸

一、北の王者が 住んだのは
強いきすなの オラが里
今に沸き出す 大清水

サテ

尽きない流れ アテルイを
偲ぶ 跡呂井 夏祭り
チヨチヨンがチヨンで

夏祭り

二、さくら花散るかがり火に
あし毛の手綱 引きしぼる
茜の丘に 草燃えて サテ

夏祭り

北の首領の アテルイを
偲ぶ 跡呂井 夏祭り
チヨチヨンがチヨンで

三、風を起して 雲を呼ぶ
まなじり険し みち険し
ススキが原に 穂がゆれて

サテ

枯れ野は夢か アテルイを
偲ぶ 跡呂井 夏祭り
チヨチヨンがチヨンで

夏祭り

四、よじもす敵を 幾たびも
鉦うちならし 迎え撃つ
わたる川面に 散るしほぎ

サテ

采配 冴えた アテルイを
偲ぶ 跡呂井 夏祭り
チヨチヨンがチヨンで

夏祭り

五、林を染めて たそがれて
俘囚となるも 胸を張る
夜空に消える 流れ星

サテ

神明の杜 アテルイを
偲ぶ 跡呂井 夏祭り
チヨチヨンがチヨンで

夏祭り

「アテルイの日」（アテルイの命日9月17日）制定宣言

古代史に刻まれた巨星、その名はアテルイ。豊かな大地と、そこに暮らす人びとを慈しみ、謂われなき王化に抗したアテルイ。西暦 802 年 9 月 17 日（陰暦 8 月 13 日）、一天の星となったアテルイ。

21 世紀を迎えた私たちは、アテルイの崇高な精神を受け継ぎ、この地域の発展を願う。

そして、恵まれた自然環境と、人びとの絆を大切に、共存共栄の未来を求める。

本日、アテルイゆかりの地から、あらゆる地域、あらゆる人びとに向けて、「アテルイの日」制定を宣言する。

2003 年 9 月 13 日 アテルイを顕彰する会